

令和7年（2025年）の恵山の火山活動

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2025年の発表履歴

2025年中変更無し	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
------------	----------------------------

○2025年の活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1-①～②、図2～9）

監視カメラによる観測では、Y火口の噴気の高さは概ね火口縁上200m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

8月28日と9月10日に国土交通省北海道開発局の協力により実施した上空からの観測及び10月15日に実施した現地調査では、X火口及びY火口、Z噴気地帯、水無沢上流部、W噴気地帯の噴気や地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図1-③～④、図10）

火山性地震は、2月22日に一時的に振幅の小さな地震がわずかに増加しましたが（日回数21回）、その他の期間は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図1-⑤、図10～11）

2月22日の火山性地震の増加に同期して、火口原付近の傾斜計で火口方向が上がる小さな傾斜変動を観測しました。

10月14日～17日に実施したGNSS繰り返し観測では、2023年10月の観測と比べて、火口原浅部のごくわずかな膨張を示唆する基線長の伸びが認められました。

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められません。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』、『数値地図 25000（行政界・海岸線）』及び『電子地形図（タイル）』を使用しています。

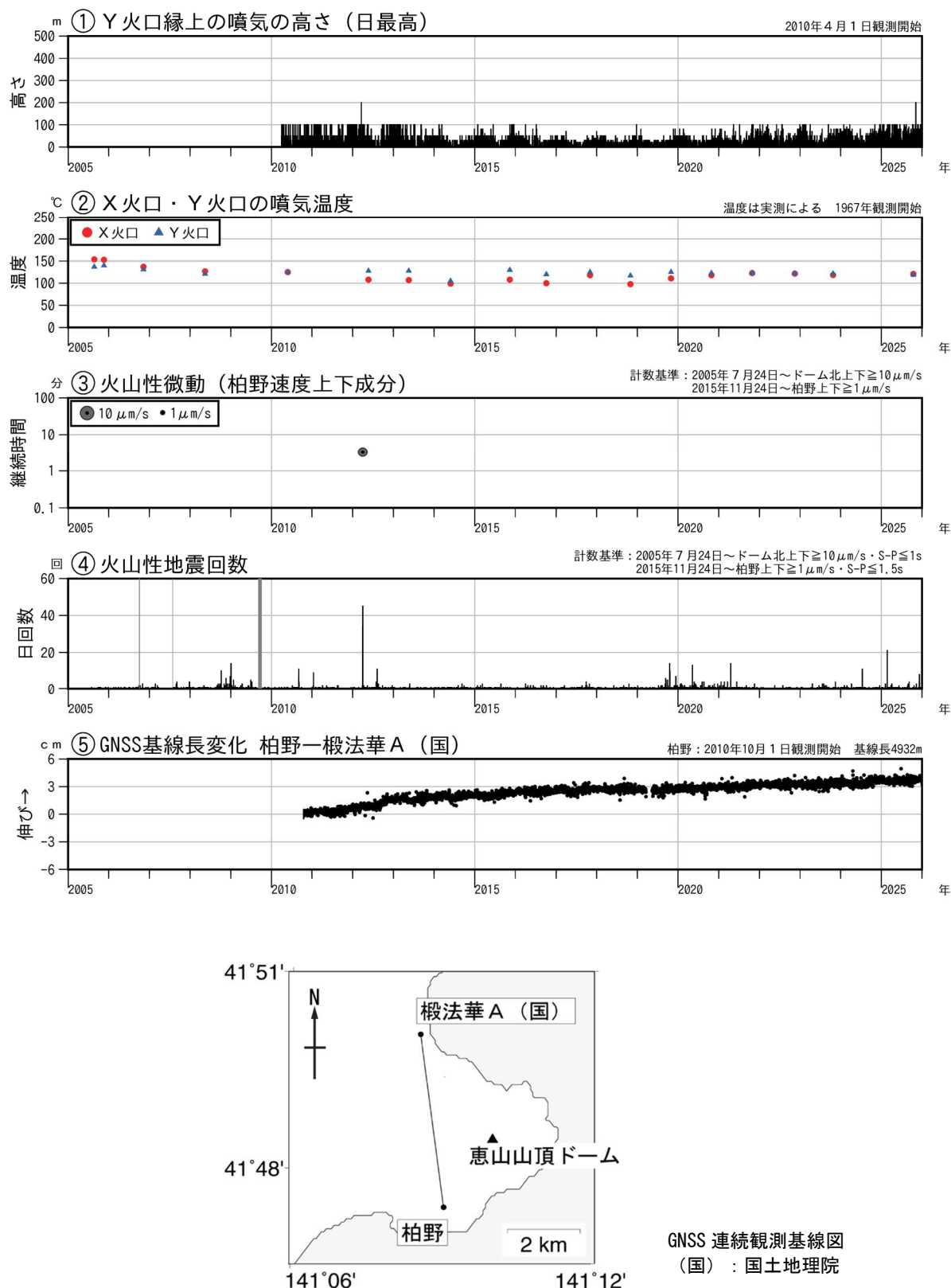


図 1 恵山 火山活動経過図（2005 年 7 月～2025 年 12 月）
④の灰色部分は機器障害による欠測期間を示します。
⑤のグラフは上図の基線に対応しています。
⑤のグラフの空白部分は欠測を示します。



図2 恵山 南西側から見た山頂部の状況（高岱監視カメラによる）

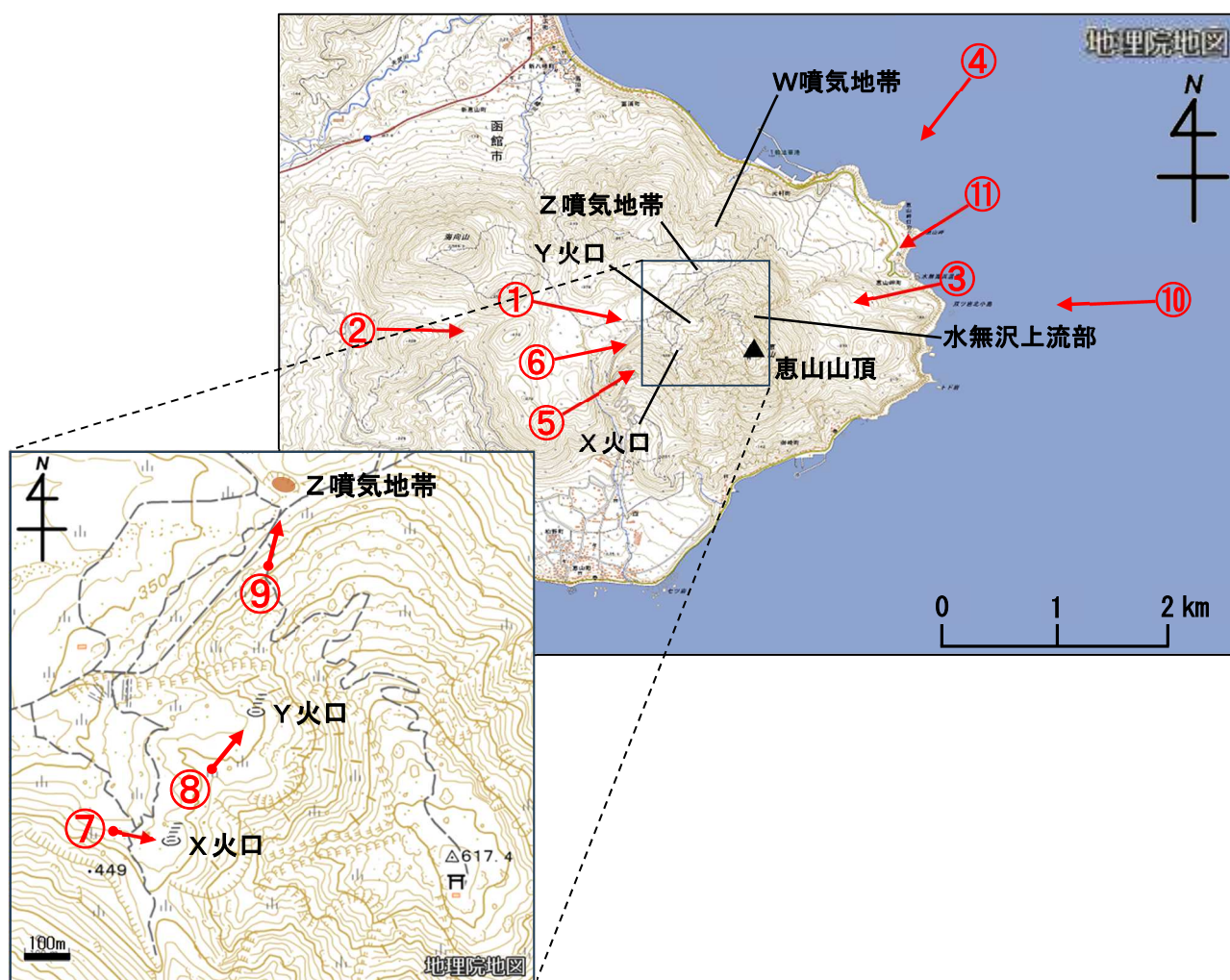


図3 恵山 火口周辺図と写真の撮影方向（矢印）



図4 恵山 火口周辺の状況

- 左上：西側上空（図3の①）から撮影 右上：西側上空（図3の②）から撮影
 左下：東側上空（図3の③）から撮影 右下：北東側上空（図3の④）から撮影
- ・これまでの観測と同様にX火口及びY火口に弱い噴気が認められました。Z噴気地帯、水無沢上流部及びW噴気地帯に噴気は認められませんでした。

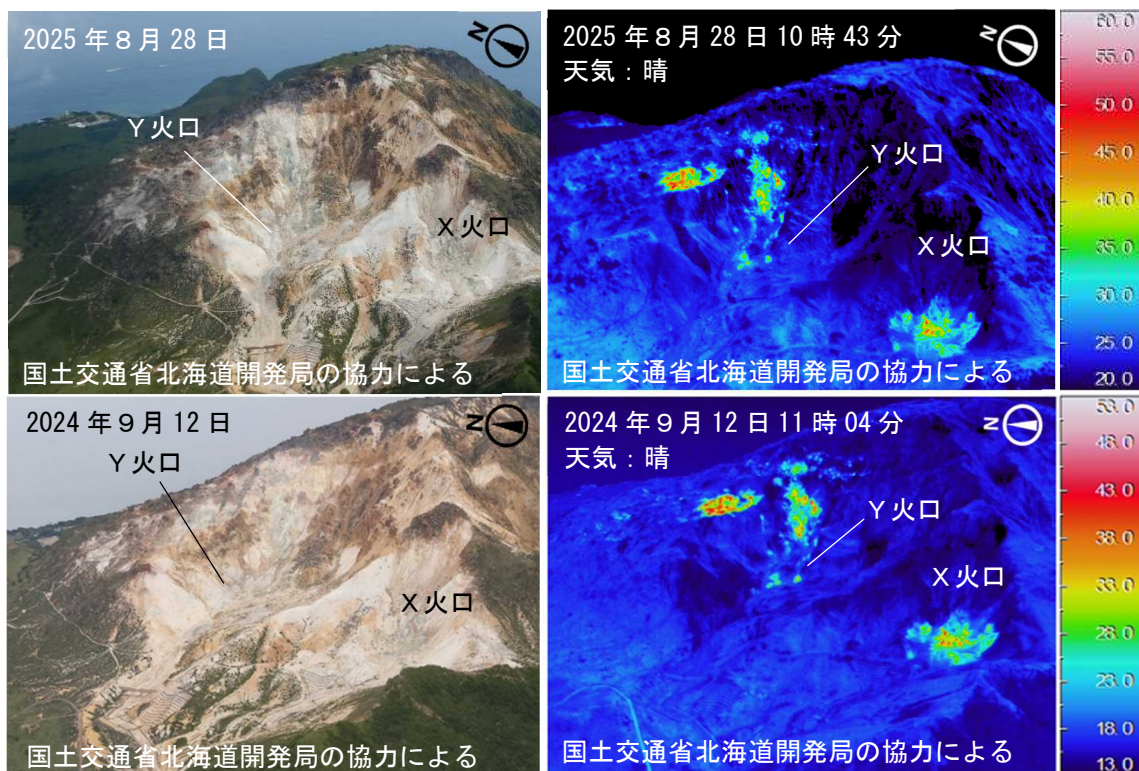


図5 恵山 赤外熱映像装置によるX火口及びY火口の地表面温度分布

- 上：南西側上空（図3の⑤）から撮影 下：西側上空（図3の⑥）から撮影
- ・前回の観測（2024 年 9 月）と比べて、地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

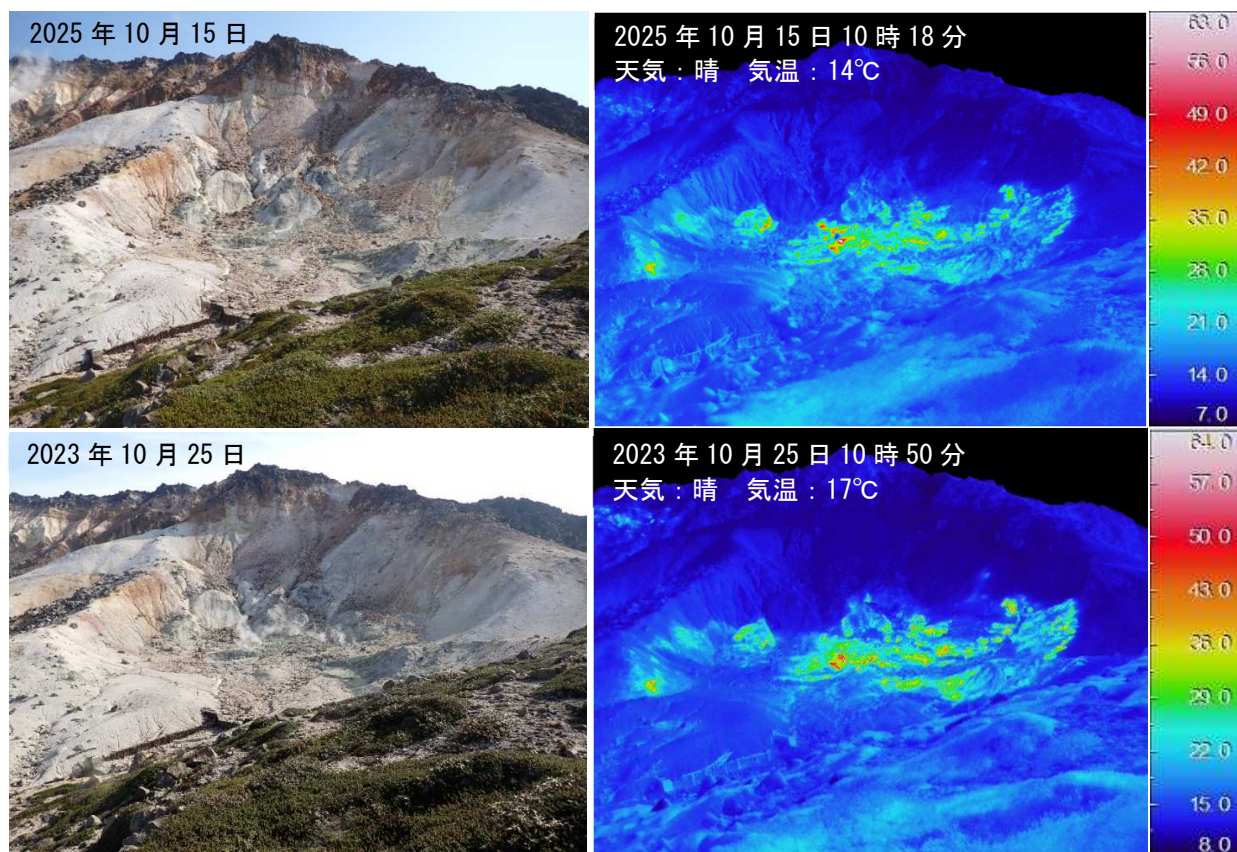


図6 恵山 赤外熱映像装置によるX火口内の地表面温度分布

西側（図3の⑦）から撮影

・前回の観測（2023年10月）と比べて、地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

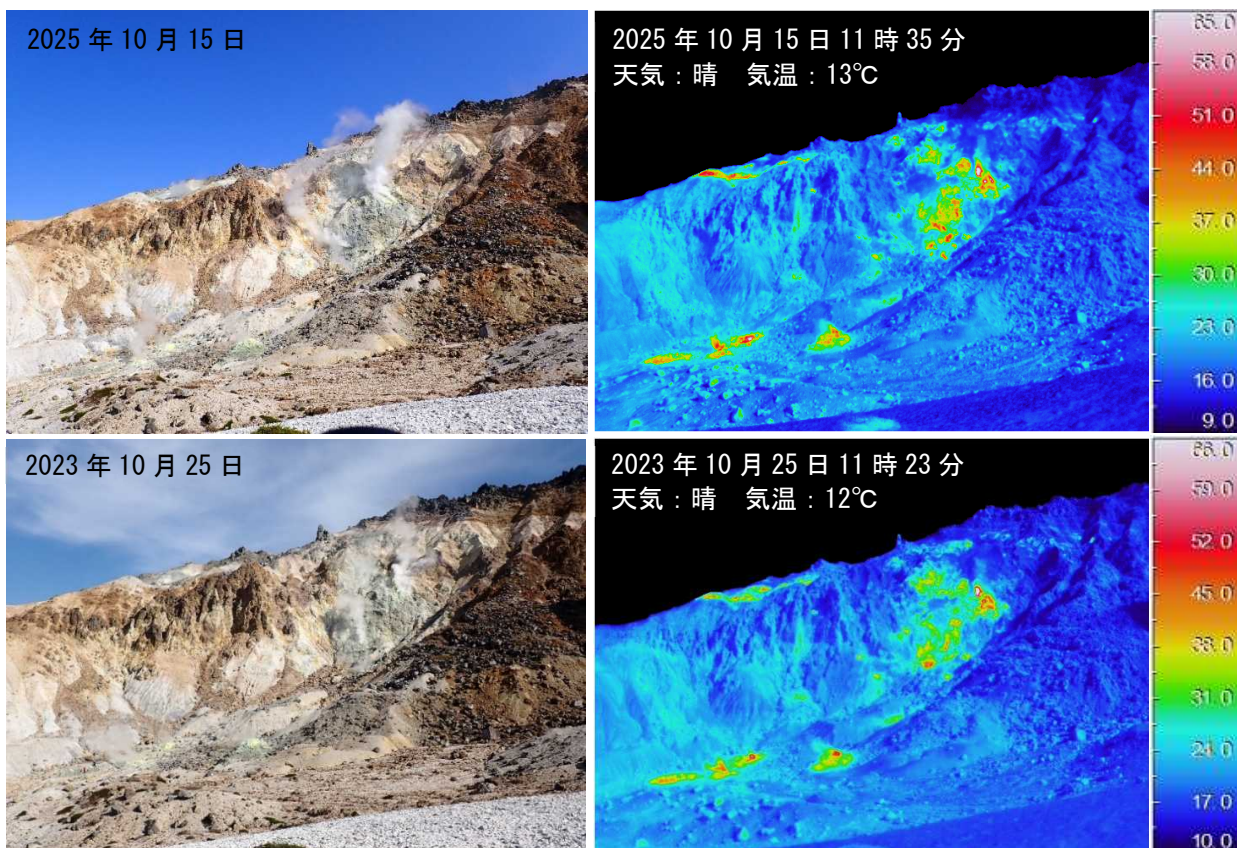


図7 恵山 赤外熱映像装置によるY火口内の地表面温度分布

南西側（図3の⑧）から撮影

・前回の観測（2023年10月）と比べて、地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

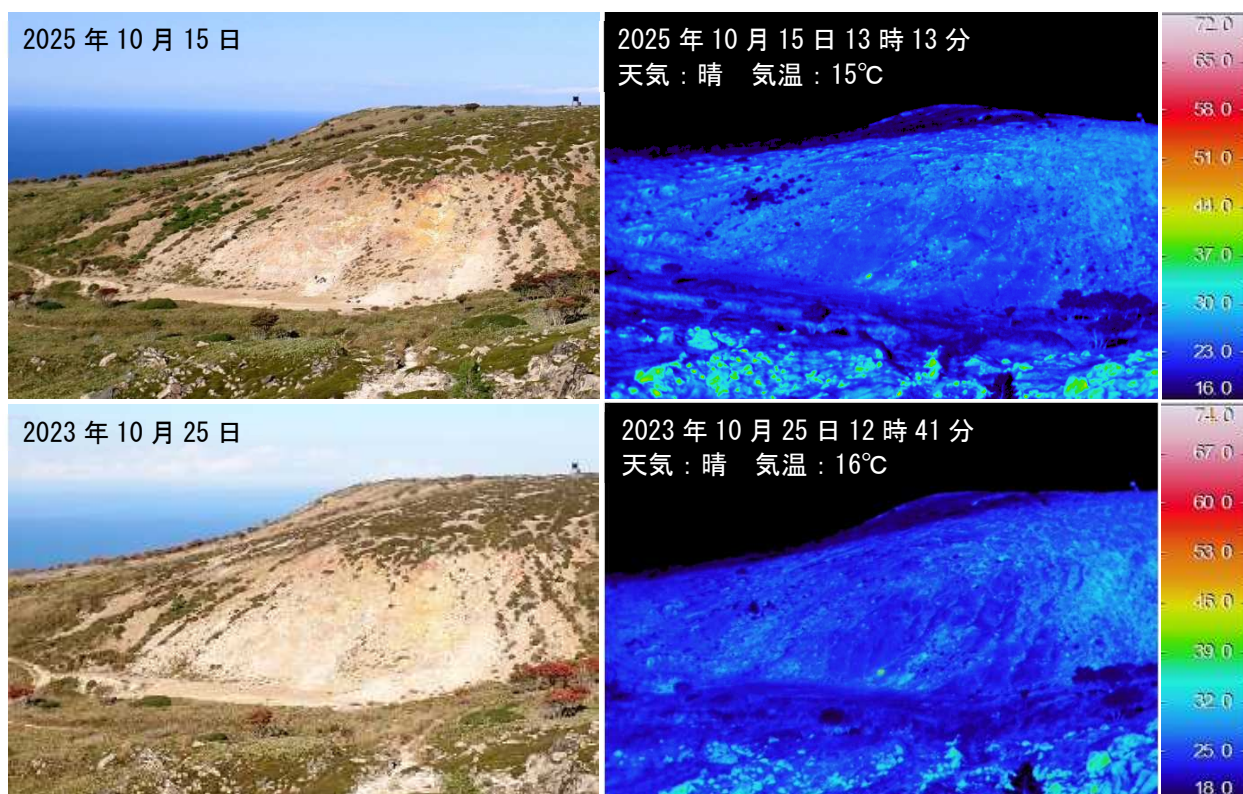


図8 恵山 赤外熱映像装置によるZ噴気地帯の地表面温度分布

南側（図3の⑨）から撮影

・前回の観測（2023年10月）と比べて、地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

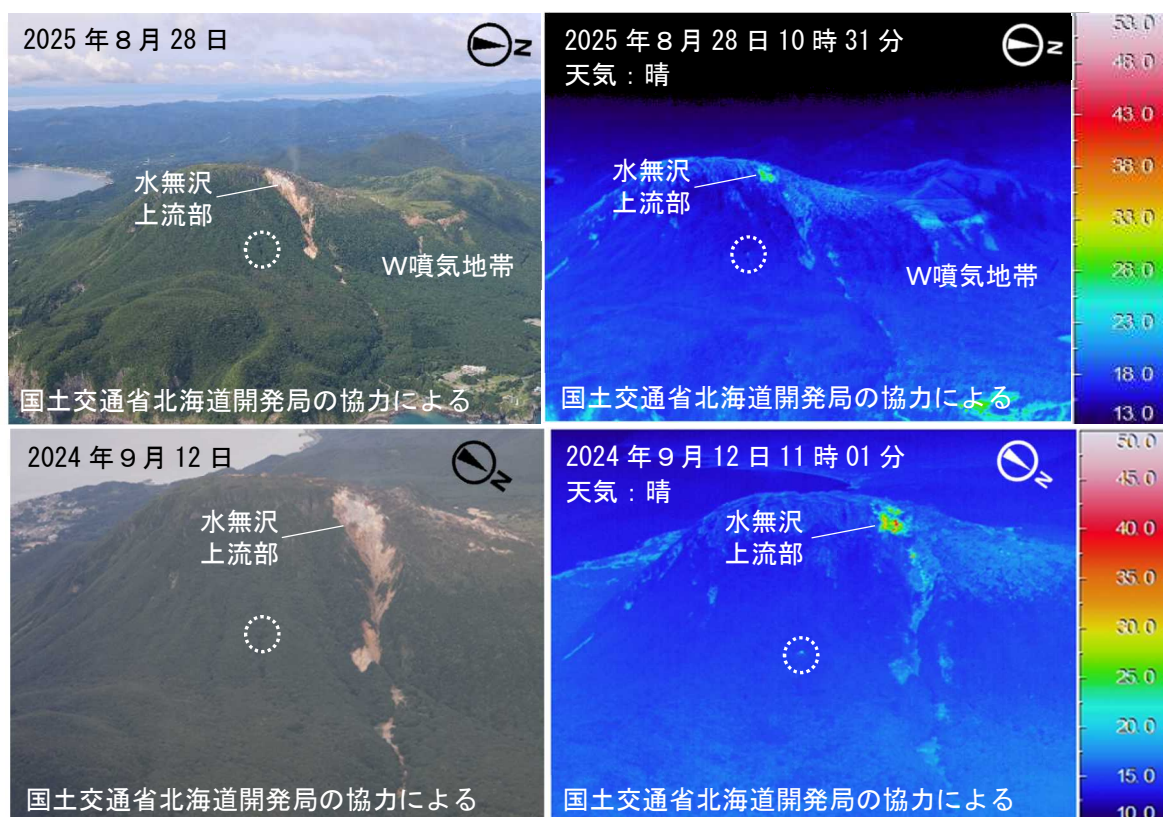


図9 恵山 赤外熱映像装置による水無沢上流部及びW噴気地帯の地表面温度分布

上：東側上空（図3の⑩）から撮影 下：北東側上空（図3の⑪）から撮影

白破線は、水無沢南東側に存在する弱い地熱域の位置を示しています。

・前回の観測（2024年9月）と比べて、地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

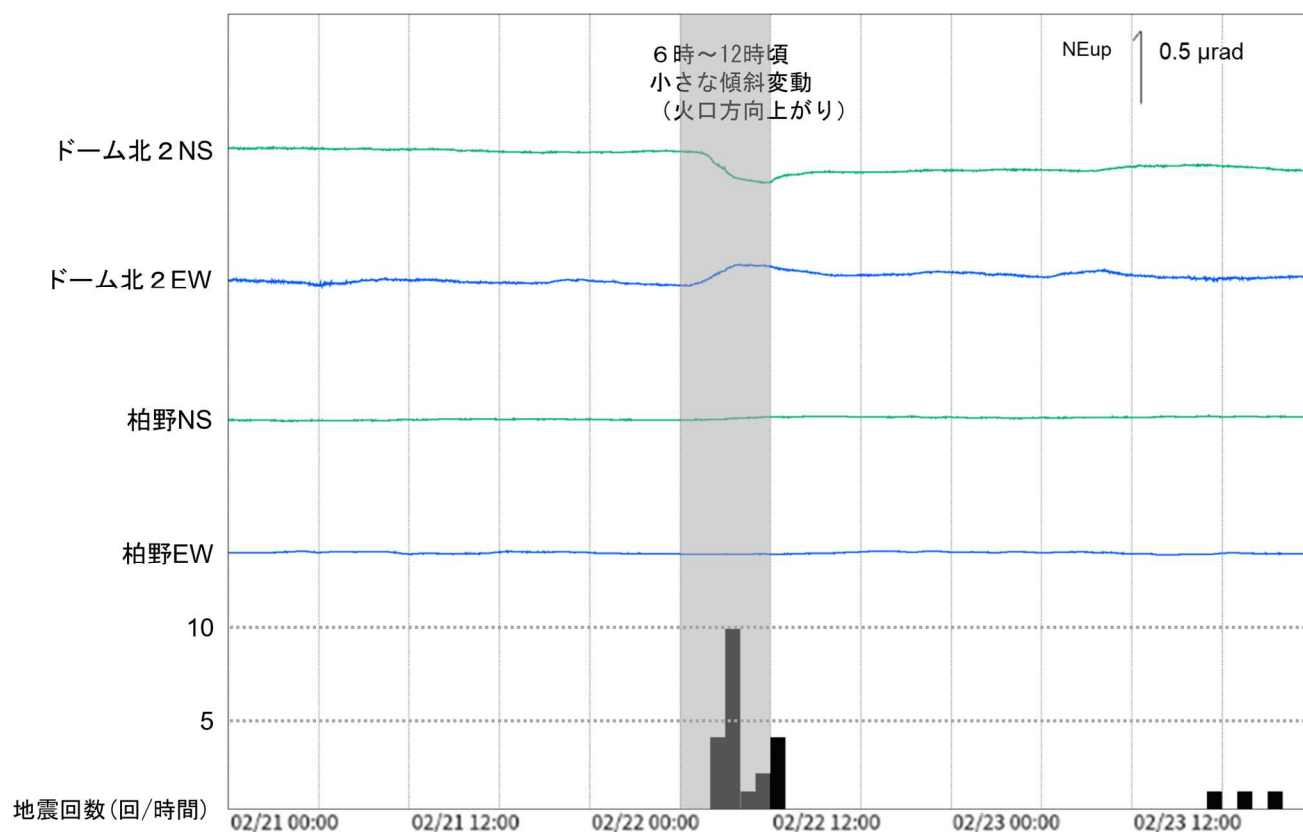
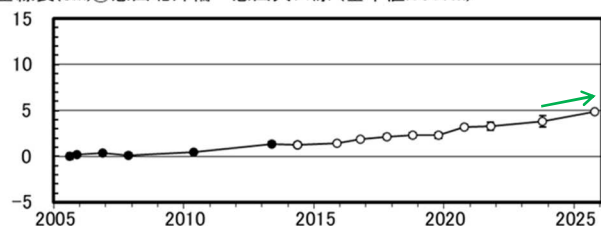


図 10 恵山 2月22日に発生した小さな傾斜変動と地震活動の推移（2月21日～23日）

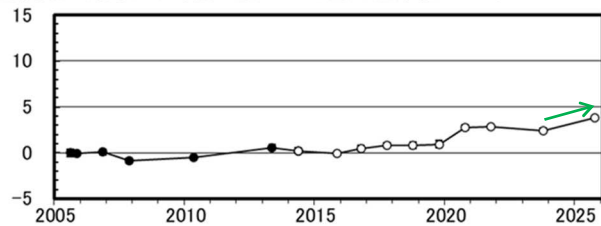
ドーム北2観測点傾斜計・柏野観測点傾斜計の観測データはいずれも潮汐変化による変動を補正しています。

- ・ 2月22日6時～12時頃（灰色部）、振幅の小さな火山性地震がわずかに増加しました。それに同期して火口原付近のドーム北2観測点傾斜計で火口方向上がりの小さな傾斜変動を観測しました。

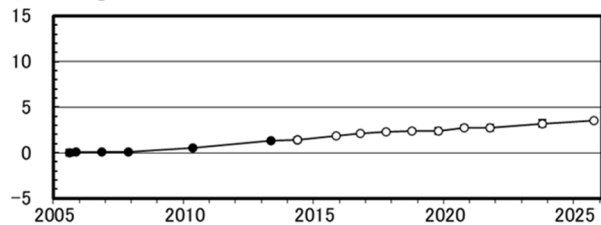
基線長(cm)①恵山北外輪～恵山火口原 (基準値:1017m)



基線長(cm)②恵山北外輪～恵山スカイ沢山 (基準値:1235m)



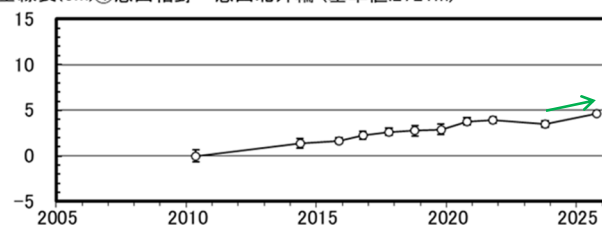
基線長(cm)③恵山火口原～恵山スカイ沢山 (基準値:920m)



基線長(cm)⑤恵山火口原～恵山岬灯台 (基準値:2940m)



基線長(cm)④恵山柏野～恵山北外輪 (基準値:2721m)



基線長(cm)⑥恵山柏野～恵山岬灯台 (基準値:3928m)

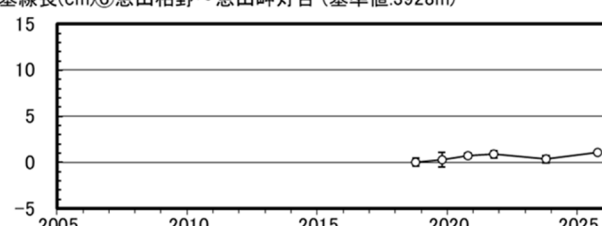


図 11 恵山 GNSS 繰り返し観測による基線長変化及び基線図 (2005 年 8 月～2025 年 10 月)
・ 2023 年 10 月～2025 年にかけて、火口原浅部のごくわずかな膨張を示唆する基線長の伸長 (緑矢印) が観測されています。

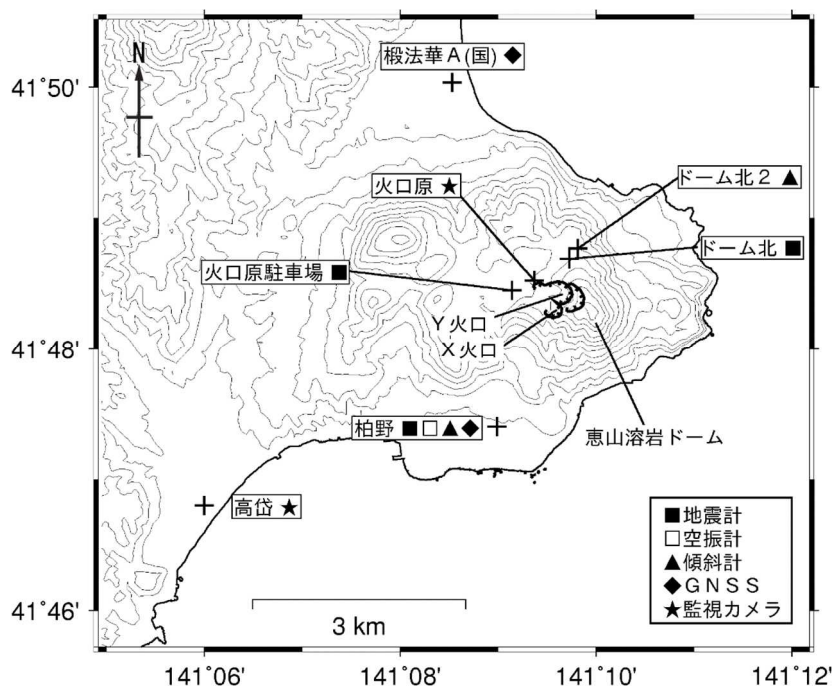


図12 恵山 観測点配置図

＋は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院

表1 恵山 観測点一覧（気象庁設置分、緯度・経度は世界測地系）

記号は図12に対応しています。

記号	測器種類	地点名	位置				観測開始日	備考
			北緯(度分)	東経(度分)	標高(m)	設置高(m)		
■	地震計	ドーム北	41 48.69	141 09.73	364	-1	2005年7月24日	
		柏野	41 47.39	141 08.99	41	-99	2010年9月1日	
		火口原駐車場	41 48.46	141 09.14	324	-3	2016年12月1日	広帯域地震計
□	空振計	柏野	41 47.39	141 08.99	41	3	2010年9月1日	
★	監視カメラ	高岱	41 46.82	141 06.00	7	13	2010年4月1日	
		火口原	41 48.52	141 09.37	351	3	2016年12月1日	可視及び熱映像
◆	GNSS	柏野	41 47.39	141 08.99	41	3	2010年10月1日	
▲	傾斜計	柏野	41 47.39	141 08.99	41	-99	2011年4月1日	
		ドーム北2	41 48.77	141 09.82	381	-15	2016年12月1日	